

2019

Summer China Camp



~Story~

JIA×FIWC Kyushu



2019 8.9~9.4

巻頭言

人は1人では生きていけない。必ず周りの誰かに支えられて生きている。出会いと別れを繰り返す中で自分が歩むその人生には、必ず自分以外の他者が存在する。人生の主演はあなた。あなたしかその物語を作ることはできない。しかし同時に、出会いと別れを繰り返す中であなたは自分以外の人生にも登場しているのである。

私たちは、中国の村を1年間に2度訪れる。たった1回会っただけでは何も変わらない。わたしはそう思っていた。しかし、それは違った。たった1回でも、その出会いによって村人の心に、わたしの心に、お互いが**存在**していた。

誰かと一緒に過ごす**時間**、誰かと分かち合う**感情**、そのすべては、あなただけでなく**誰かの人生の一部になる**ということを忘れてはならない。

あなたとわたしのかけがえのない人生。

そんな人生を紡ぐ

紡 -story-

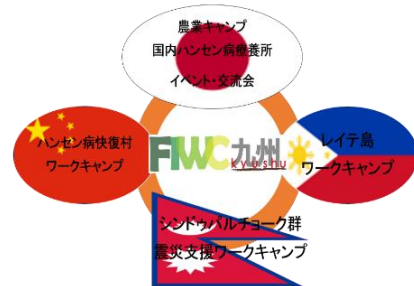
目次

- 1 巻頭言 (p.2)
- 2 目次 (p.3)
- 3 FIWC のチャイナキャンプとは (p.4)
- 4 ハンセン病とは (p.6)
- 5 JIA とは (p.8)
- 6 ワークキャンプとは (p.11)
- 7 国内外のスケジュール (p.13)
- 8 2019 年夏チャイナキャンプ形態 (p.16)
- 9 JIA 会員代表大会 (p.24)
- 10 キャンプテーマ・キャンプ T シャツ (p.30)
- 11 衣食住について (p.31)
- 12 各係の仕事 (p.33)
- 13 会計について (p.37)
- 14 他己紹介 (p.41)
- 15 感想 (p.44)
- 16 今後の方針について (p.54)



FIWC とは

FIWC とは、フレンズ国際ワークキャンプ (Friends International Work Camp) の略称です。第二次世界大戦後復興のため、アメリカ・フレンズ奉仕団 (AFSC) がワークキャンプを日本で実施したのが始まりで、1950年代に AFSC から独立し、FIWC が結成されました。それ以来 FIWC は、国内外でワークキャンプを 60 年以上実施



しています。現在その支部は全国に広がり、FIWC 関西委員会、関東委員会、東海委員会、九州委員会が活動しています。私たち九州委員会は九州（主に福岡）の大学生が主体となり、学生のみで運営・活動をしており、国外ではフィリピン、中国、ネパール、国内では耶馬溪の農業キャンプや国立ハンセン病療養所などを中心に活動しています。

また、私たち FIWC は、一般市民・学生による任意の非政府組織 (NGO) であり、いかなる政治・宗教団体とも一切関係のない学生団体です。



FIWC 九州のチャイナキャンプとは

私たちは、かつてハンセン病にかかり山奥の農村に隔離された村人が住む

「ハンセン病快復村」でキャンプを行います。

村人はハンセン病が完治しているにもかかわらず、後遺症や周囲からの差別によって依然として孤立した環境や不便な生活を強いられています。チャイナキャンプでは、村の家屋の一室を借りて村人と生活を共にしながら主に5つのことを行っています。

村のインフラ整備を目的としたワークプロジェクト

→水路の建設、ゴミの撤去など

後遺症により日常生活が困難な村人の手伝いをするワーク

→村人の家の掃除、蚊帳やベットシーツなどの洗濯など

周囲の町や村に対してハンセン病について理解してもらう啓蒙活動

村人と楽しい時間を共有するためのパーティ

村や村人についての記録プロジェクト

私たちは、現地のNPO「家-JIA-」の会員である中国人学生と一緒に、これらの活動を行っています。

ハンセン病とは

人類の歴史上もっとも古くから知られ、恐れられてきた病気の一つである

ハンセン病

皆さんはこの病気についてどんなイメージを持っていますか？

そしてハンセン病快復者とはどんな方々なのでしょう？

私はこのキャンプで彼らに出会い、彼らに対する印象が大きく変わりました。

○そもそもハンセン病とはどんな病気なのでしょう？

らい菌が皮膚と神経を侵す感染症で、手足の知覚が麻痺したり変形したりすることがあります。感染経路としては人を介しての侵入ですが、ハンセン病は「もっとも感染力の弱い感染症」とも言われているほどうつる可能性は非常に低いのです。現代では、特効薬も開発されており完治する病気です。

○ハンセン病に対する差別と歴史

当時、ハンセン病は今のように原因や治療法が確率されていない病気だったので、「呪い」や「天罰」として扱われていました。また、ハンセン病になった人の見た目に見える異常や感染することへの恐怖からも様々な差別が行われてきました。患者自身はまわりの人や家族に迷惑をかけないようにと自ら、故郷を離れて放浪したり、国の政策によって遠く離れた島や隔れた施設へ追いやられたり、社会から疎外された状態で生涯を過ごすことを余儀なくされました。

私たちが出会った村人ひとりひとりもそのうちのひとりです。ハンセン病はもはや完全に治る病気であり、彼らから感染する可能性は皆無です。にもかかわらず、社会の無知や誤解、無関心、または根拠のない恐れから、今なお、快復者やその家族までもが、ハンセン病に対する偏見に苦しんでいます。差別の意識、偏見はそう簡単には消えません。自らを汚れた存在だと思い、恐れられる存在だと感じている快復者もいます。今なお、家族や友人に会うことができずに心に深い傷を負っている村人もいます。ハンセン病の歴史、偏見が、今を生きるハンセン病快復者の方々をも苦しめている現実があります。

この現実を知って、皆さんが思う快復者に対するイメージはそれぞれだと思いますが、
今も暗く生きているのかな？とか... 私もそう思っていました。

ですが、実際に会ってみて彼らに対する印象は大きく変わりました。

村に私たちが来た瞬間から笑顔で温かく迎えてくれます。本当に力強く生きています。私たちが優しく受け入れてくれ、たくさんのお愛を与えてくれます。こっちがもどかしいくらいです。

そんな彼らでも、きっと私たちが想像する何倍もの苦しみを経験し、乗り越えてきたんだとも思います。私は彼らを心から尊敬します。キャンプ中、そんな温かさを受けて、彼らのために自分に何ができるか、たくさん考えることができます。答えはそれぞれが見つけたことだと思います。それぞれが感じたことでいいと思います。自分なりの方法で彼らのために何か尽くせれば、彼らにきっと伝わると私は思います。たくさんたくさん村人と接して色々な感情を体験できる、そんな素敵なキャンプだと思います。

家-JIA- とは

チャイナキャンプでは、FIWC 九州と中国の民間非営利団体『家-JIA-』（以下 JIA）が合同でワークキャンプを行っています。JIA なくしてチャイナキャンプは成り立ちません。



◆ JIA について

JIA は、2004 年 8 月 30 日に FIWC 関東 OB の原田遼太郎(通称タイランさん)と数人の同士によって設立されました。中国南部五省（広東省、広西省、海南省、湖南省、湖北省）にあるハンセン病快復村及びその周辺の地域で、ハンセン病快復者の生活・社会環境の改善を目的としてワークキャンプを行っています。

主な活動内容として、水道設置や道路舗装などのインフラ整備や、ハンセン病に対する差別をなくし、理解を深めるための啓蒙活動などのプロジェクトを実施しています。

◆ JIA 設立者

原田遼太郎(タイランさん)



1978 年、神奈川県生まれ。早稲田大学卒業後、2003 年 4 月中国ハンセン病快復村リンホウ村(広東省潮州市)に移住。2004 年、『家-JIA-』を設立。日本だけでなく中国の講演実績も豊富で、その内外から大きな評価を得ている。

今回のチャイナキャンプ期間中、何度もお世話になりました。とても親しみやすい方で、ワークキャンプの起源やリンハウ村でのエピソード、JIA が設立するまでのお話などたくさん聞かせていただきました！

タイランさんとは日本で会える機会もあるのでそのときはぜひ話してみてください！

JIA やハンセン病のことなど貴重なお話が聞けるかも？

JIA は、現地（快復者）の生活および社会環境を改善すると同時に、その体験を通して若者の成長を促し、社会に貢献する人材の育成を担っています。計8つの地区委員会と事務局が存在しており、各委員会は大学生を中心としたボランティアが自主的に活動を運営し、事務局はその活動を人材育成、情報、物資、財務、など様々な面からサポートしています。また、大学卒業後には“Back Up Team”を組織してサポートを行っています。



◆ 家-JIA-の理念

“Joy In Action”

社会にはたくさんの方がいます。

人によって意見も異なります。

議論し、考えるだけでは、問題の解決にはつながりません。

行動が必要なのです。

それぞれが主体的、自体的にワークキャンプに参加することで、

互いの違いを認め、尊重しあい、ツナガりが生まれます。

この過程には多くの時間やエネルギーを要するかもしれません。

◆ JIA 広州委員会

私達は中国の広州地区にある JIA 広州委員会と共同でキャンプを行っています。

広州委員会のメンバーはほとんどが広州市内に住む学生です。

キャンプ中は英語でコミュニケーションをとります。お互いに日本語や中国語を教えることもキャンプの楽しみの一つです。

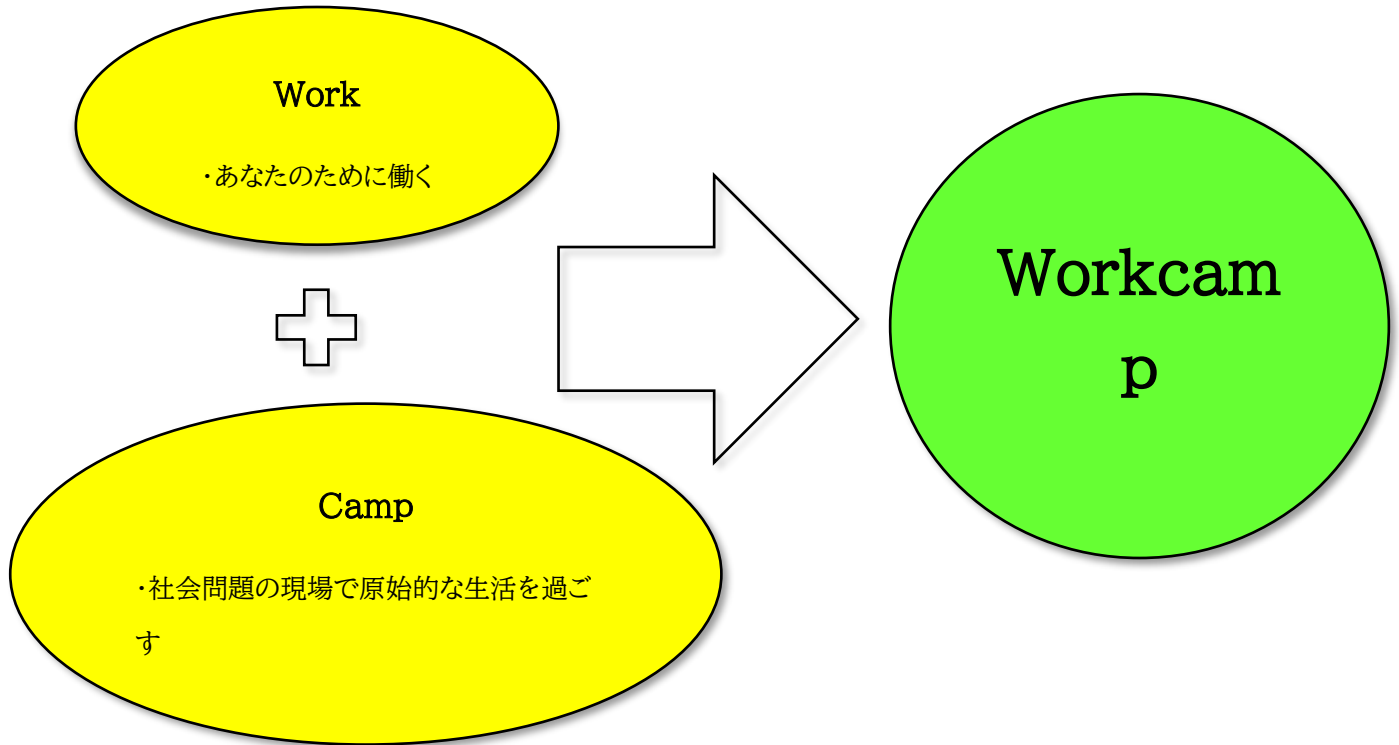
みんな個性的でとても面白い子たちばかりです。

同世代の子が多いのでとても仲良くなり、今でも SNS で連絡を取り合っています！



ワークキャンプとは

ワークキャンプとは、**work** と **camp** を組み合わせ、できた言葉です。



ワークキャンプはボランティア活動の形態の一つで、外部から支援するのではなく、現地に赴き、そこで共同生活をしながらその場所で必要とされているワークを行うキャンプのことです。



〈ワークキャンプの起源〉

第一次世界大戦後、それまで敵対していたヨーロッパ諸国の若者たちは、国境を越え、共同生活を送りながら協力して戦争で破壊された街を再建する平和活動を行うようになりました。

1920年、フランスとドイツの間のフランス側のベルダンでドイツ人がフランス人に石を投げられながらも、フランスの戦争被害地の再建を始めました。

初めはドイツ人を拒否していたフランス人でしたが、次第に互いが集団（フランス人とドイツ人）ではなく、個人として認識するようになり、“あなたとわたし”の関係が生まれました。

この出来事がワークキャンプの起源となりました。

〈JIAのワークキャンプ〉

JIAのワークキャンプでは、20～30名のキャンパーがハンセン病快復村及びその周辺の地域で1～3週間で共同生活し、インフラ整備や現地の人々との交流、啓蒙活動などのプロジェクトを行います。

キャンパーが快復村に住み込むことは、周辺住民のハンセン病に対する恐怖心を取り除く効果があり、ハンセン病に関する理解を深めることができます。そして、ワークキャンプを通して、共に飲み、語り、食べ、汗を流しながら一緒に時を過ごすことで、キャンパーと村人（ハンセン病快復者）の間には繋がりが生まれます。

また、JIAワークキャンプではハンセン病快復村に生活、経済、健康、社会（差別の軽減）、心理などの様々な面においての変化をもたらしてきました。



スケジュール

【日本でのスケジュール】

- 5/31 キャンパー募集締め切り
- 6/6 第1回 MTG@びおとーぷ
- 6/20 第2回 MTG@西南クロスプラザ
- 6/27 第3回 MTG@西南クロスプラザ
- 7/4 第4回 MTG@あすみん
- 7/11 第5回 MTG@西南クロスプラザ
- 7/12 海外安全セミナー@九大馬出
- 7/19 第6回 MTG@びおとーぷ
- 7/26 第7回 MTG@びおとーぷ
- 7/27 決起会@びおとーぷ
- 7/30 第8回 MTG@びおとーぷ



【中国でのスケジュール】

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					8/9 日本出発	10 中国到着
11 ルードン 村滞在	12 	13	14	15	16 	17
18	19 JIA オフ イス滞在	20 広州観光	21 	22 AGM	23 	24

25	26	27	28	29	30	31
後発組合 流	JIA オフィ ス滞在	テンチャ オ村滞在				広州観光
9/1	2					
中国出発	日本帰国					

【タイムテーブル in 儒洞】

6:55~7:20	起床
7:20~7:45	ランニング&キャンプダンス
7:50~8:20	朝食
8:50	集合
8:50~11:55	午前プロジェクト
12:00~12:30	昼食
12:30~13:55	自由時間
14:15	集合
14:30~17:50	午後プロジェクト
17:55~18:30	夕食
18:30~20:00	自由時間
20:00~22:00	MTG
22:00~22:30	レクリエーション
22:30~24:00	ナイトチャット等



【タイムテーブル in 藤橋】

8:30～	起床
9:00～	朝食
10:00～11:55	午前プロジェクト
12:00～13:00	昼食
13:00～14:15	自由時間
14:30～17:50	午後プロジェクト
18:00～	夕食
20:00～	MTG
21:00～	レクリエーション & ナイトチャット



2019年夏チャイナキャンプ形態

2019年夏チャイナキャンプは、FIWC九州から6名が中国を訪れました。しかしJIAのワークキャンプに参加できる日本人の人数が5名までと決められていたためキャンパー6名を、ワークキャンプから参加する5名（先発組）とvisitキャンプのみ参加する1名（後発組）に分けてキャンプを行いました。

儒洞村-ルードン村-ワークキャンプ(8/11~18)

参加者：かせちゃん、ぽぽ、きたまな、ゆうか、たつき JIA 広州委員会 20名



藤橋村-テンチャオ村-visit キャンプ(8/27~30)

参加者：かせちゃん、ぽぽ、きたまな、ゆうか、たつき、みなみ JIA 広州委員会 5名



儒洞村ワークキャンプ

今回は濡洞村(ルードン村)に8日間滞在し、ワークキャンプを行いました。現在、村人は25人いて、22人が永住者です。そのうち、16名が男性で、6名が女性です。2017年3月に初めて、4人のJIA広州委員会のボランティアが訪れました。村人と病院の方々はボランティアを歓迎しました。

これらの活動を通して村人とは良い関係を築いてきました。村にはキッチンをついた家が9列あります。さらに2つの共同トイレがあり、そのうちの1つは昨年建てられました。幸運なことに、2018年10月にお風呂が建設されました。

FIWC九州としてこの村でワークキャンプを行うのは今回で4度目となりました。

〈日程〉 8/11～8/18

〈参加者〉 日本人キャンパー5名、中国人キャンパー19名

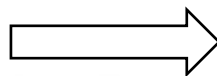
〈活動内容〉

1. 古い断熱層の取り壊しと新しい断熱層の建設
2. ビッククリーニング
3. カードゲーム
4. デイナーパーティー
5. ルードンシネマ
6. 健康講座
7. 携帯電話使用方法ガイド
8. 朝から夕暮れまで一緒に過ごそう

1.古い断熱層の取り壊しと新しい断熱層の建設

村人の「部屋が暑い」という声をもとに、屋根の上にあった古い断熱層を取り壊し、新しい断熱層を設置した。砂とセメントと水を混ぜ、コンクリートを作った。かなり重労働であったためキャンパーはかなり疲弊していたが、2日間かけて完成させることができた。

before



after



2. ビッククリーニング

半日を利用して、村人の家の中や、家の前の滑りやすいコケの排除等を行ないました。掃除を担当したキャンパーは村人とお話ししながら楽しんで交流もできたようです！このプロジェクトを通して、村人の家の衛生環境を改善し、安全上の問題を取り除き、快適で安全な生活環境を作り出すことを目指しています。



3. カードゲーム

村人とトランプを使ってポーカーというゲームをしました。村人はとても強く、勝つのに苦戦しました。場は盛り上がり、とても楽しく過ごせました！



4. パーティー&ディナーパーティー

<パーティー>

このプロジェクトは、村人を招待してキャンパーが歌やダンスを披露して楽しんでもらうという企画です。キャンパー全員が毎朝踊っていたキャンプダンスと食事の前に必ず歌うキャンプソングを披露し、Chineseからは村人が馴染みのある歌と演劇の披露をしました。日本人パフォーマンスとして、私たちは「エビカニクス」を披露しました！

広東語でエビは「シェー」、カニは「シャー」というそうですよ！

～プログラム～

- ①キャンプダンス【MNMMAMIA】
- ②LubyとNovo (Chineseメンバー)による演劇
- ③WilliamとLaoHu (Chineseメンバー)による歌の披露【上海灘】
- ④日本人パフォーマンス【エビカニクス】
- ⑤キャンプソング【Heal the world】



すてきな笑顔!!!



<ディナーパーティー>

村人と一緒に料理の準備をし、いくつかのテーブルにみんなで円になって、出来上がった料理を食べます！村人とおしゃべりしながら、ご飯を食べる幸せな時間です。村人も Big dinner を楽しみに待っていたそうで、毎回恒例の企画です。

この料理を見てください。とても豪華でしょ？村人が作る料理はどれも絶品です。また、村人の友達や村以外の人でも数人来ていて、その人達との交流ができる機会でもありました！



Let's cook!!!



完成!!!

村人に教えてもらいながら

Cooking!!!

魚のさばき方も村人は何でも
知っている (笑)



心もおなかも
満たされた時間でした!!!



乾杯



5. ルードンシネマ（映画鑑賞会）

8/14 の夜、村人を招いて映画の鑑賞会を行いました。もともとダウンロードして準備していた映像が不鮮明だったため急遽別の映画を用意しなければならないアクシデントにも見舞われましたが、無事に終わることができました。この日は昼から村人と一緒にパーティーをしていたので、鑑賞会の参加人数は10名弱と少しさみしかったです。参加してくれた村人は最後まで楽しんでくれていたのでよかったです。



6. 健康講座

村人に集ってもらい、陥りやすい病気などを紹介する健康講座を行いました。チャイニーズキャンパーの中に、医学関係の大学で学んでいるキャンパーがいたため、彼らが包帯の巻き方などを実演しました。



7. 携帯電話使用方法ガイド

携帯電話の使用方法を知りたいという要望があったため紙に書いて説明したり、実際に一緒に使ったりして、スマートフォンの使い方を教えることができました。村人からは好評であり、継続して教えてほしいという声もあがりました。



8. 朝から夕暮れまで一緒に

村人の起きる時間に起き、朝から夕暮れの18時ごろまで村人と一緒に過ごした。普段村の外に仕事に出ている村人にも許可をもらい村人と1日中過ごした。それまで知らなかった村人の習慣を知れたり、長い時間村人と一緒にカードゲームをしたり、朝、昼、夜の食事を共にしたりと、まるで村人と家族時間を過ごすことができた。村人たちはキャンパーをまるで孫のようにもてなしてくれました。とても幸せな1日を過ごすことができました。



JIA 会員代表総会

《 概要 》

《スケジュール》

第11回 家~JIA~会員代表総会

日時：2019年8月22日(木)～
8月25日(日)

場所：広西省チワン族自治区南
寧市興寧区蔡武路 23 号 銀林
山荘

《団体紹介》

22日	集合、レクリエーション
23日	会員代表総会、地区委員会の報告 映像鑑賞(日本人ミーティング)
24日	ディスカッション、フリーマーケット スポーツ大会、パーティ
25日	解散

2日目の地区委員会の報告の際に、FIWC九州の団体紹介をかせちゃんが英語で行いました。団体紹介は、国内での活動と国外でのワークキャンプについて行いました。紹介の後、質疑応答も行いました。JIAのほうから多くの質問を受け、お互いを知るのにとっても良い機会だったと思います。



《ディスカッション》

ディスカッションは三日目に行われました。中国語で行われるディスカッションに参加するのは難しいので日本人だけで、FIWCのチャイナキャンプについてディスカッションを行いました。今年は、笹川財団の三賀知恵美さん、ジャンボ(日高将博)さん、FIWC関東委

員会チャイナキャンパーも AGM に参加していたため、たいらんさんと共にキャンプを終えての感想や疑問などを話し合いました。



〈フリーマーケット〉

フリーマーケットは三日目に行われました。各地区キャンプ T シャツやステッカーなどを販売していました。FIWC からは日本で購入した日本特有のものを販売しました。ほとんどの商品を売ることができ、288 元の利益を生み出すことができました！！

〈スポーツ大会〉

三日目に行われたスポーツ大会では地区対抗バレーボール大会が行われました。FIWC 九州はイーチャン地区とともに参加しました。なんと、、、我らが広州地区が優勝を果たしました！



〈パーティ〉

3日目の夜にパーティが行われました。各地区がキャンプ T シャツショーを行い、私たちは FIWC 関東と一緒にエビカニダンスを踊りました。いろいろな地区の人や JIA の職員の方々と交流することができました。タイランさんや事務局長や各地区の OB・OG などと、キャンプについて深い話をすることができました。



テンチャオ村ビジット

2019年春にFI九州が初めて訪れたテンチャオ村にて、儒洞村ワークキャンプとAGMのあとにビジットという形で村を訪れました。

期間：8/27～8/30

参加者：日本人6名、中国人5名 計11名

プロジェクト内容

- ・日本茶と和菓子の提供
- ・ホームビジット



当初絵具で模様を描くマーブリング企画を予定していましたが、移動の際に利用した列車に持ち込むことができず(弱酸性という表示が駄目だったようです)、日本茶を味わってもらったプロジェクトのみになりました。しかし、マーブリングの分の時間をホームビジットに充てることができ、結果として交流がしっかりできたのではないかな、と思います。

日本茶プロジェクト

8/29 の午後、2 チームに分かれ村人の家を一軒一軒回って日本のお茶二種類（緑茶と麦茶）と羊羹を味わってもらおうプロジェクトを行いました。何人かの村人は甘いものを控えていることもあり、全員に食べてもらうことはできませんでしたが、お茶はどの村人もおいしいと飲んでくれて、キャンパーも村人もぐっと距離が縮まる素敵な時間となりました。



きたまなバースデー

ビジット中に20歳のお誕生日を迎えたきたまなをみんなでお祝いしました！
屋上で星を見ながらのロマンチックなお誕生日会となりました☆



8月30日16時50分頃、達希が村の犬に噛まれるというアクシデントが発生しました。原田燎太郎さんをはじめとする多くの方々に助けをいただき、無事に24時間以内に暴露後注射を打つことができました。ご心配、ご迷惑をおかけし、大変申し訳ありませんでした。たくさんの協力本当に心強かったです。ありがとうございました。

本当にたくさんの方に支えられてキャンプができているのだと実感した時間だった。私たちのビジットのために集まってくれた5人のチャイニーズ、緊急時にすぐに対応し、万全の対応をしてくださった多くの方々、言葉では伝えきれないほどの感謝でいっぱいです。

そして、日本人がもう来なくなったらどうしようと言っていた村人に、帰ってきたよと言えるように、もう一度大好きな村人に会えるように、自分たちにできることを探していく。

キャンプテーマ

2019年夏チャイナキャンプのテーマは

「紡-story-」

「紡」には、“繊維を一本にして糸を作る” “自ら積極的に行動する”という意味があります。この「紡」と「story」をかけて、これまで先輩方が築きあげてくださったキャンプ、再びキャンプに行くメンバーは前回のキャンプへの想いを紡ぎ、初めて行くメンバーも含めみんな積極的に行動して私たちのキャンプ(物語)をつくろう、という想いを込めてこのテーマに決定しました。

キャンプグッズ

チャイナと言えば…やっぱり赤!!!! (笑)

ということで、

正面はみんなで支え合い、笑顔溢れるキャンプにしたいという意味を込め、色はチャイナらしい赤と黄色でデザインしました。

裏はキャンパー全員の名前と FIWC と JIA を絡めたデザインです。

こちらは、赤と白という日本らしい色合いになっています!



衣食住について

衣

私達が行く広州地区は沖縄と同じ位の緯度に位置することから夏は蒸し暑かったです。基本的には上は半袖の T シャツで、下は半ズボンまたは長ズボン、靴は動きやすいスニーカーかクロックス、といったラフな格好で過ごしました！蚊がとても多く、下は長ズボンを履いた方がいいでしょう！



食

オフィスに滞在している時は基本的に付近の飲食店で食べていました。味は何ととっても美味しい！！しかも1食250円程度で大量に出てくるのでコスパも抜群！中国料理といっても辛くなく食べやすい！！円形テーブルで THE 中華料理！といった雰囲気でも食べることができます。



村での食事はマーケットで買った食材を村に持ち込み、キャンパーみんなで調理します！村には釜戸があり、薪で火を焚いて大鍋で調理します。朝はお粥と炒め物、昼と夜は白米とおかず3,4品といったメニューとなっていました。味は何ととってもこれも美味しい！食べる前にはテーブルをキャンパー全員で囲ってキャンプソングを歌います！家族のような団らんとして雰囲気ワイワイしながら食べました！



住

村にはキャンパー用のスリーピングルームがあり、そこにゴザや布団を敷いて寝ていました。その部屋でMTGを行いました。ワークキャンプでは毎晩どこで寝るかを決めるためのゲームがあり、とても盛り上がりました。

村でのシャワーはバケツに熱湯を汲み水を混ぜていい湯加減になるようにブレンドして作ったお湯を桶ですくって浴びました。オフィス滞在時にはお湯のシャワーを浴びることができます。総じてお湯を浴びることができました。

トイレは洋式と和式どちらもあります。バケツで水を入れ、水圧で流します。トイレトーパーはそのまま流すとつまりの原因になるのでゴミ袋に入れて捨てました。



各系の仕事報告

GL (ジェネラルリーダー) in 儒洞 (かせちゃん)

〈仕事内容〉

- ・ワークキャンプ全体のリーダー
- ・キャンプが円滑に進んでいるかどうか常に気を配り、みんなをフォローする仕事

(国内)

- ・JIAのメンバーと連絡を取り合う (スケジュール、参加人数、訪問する村などについて)

(現地)

- ・ミーティングの準備、進行
- ・キャンパーを見守る



〈総括〉

GLとしてきちんと役目を果たせたかは正直分かりませんが、みんながキャンプを通して楽しかった、また行きたいと言ってくれたので良かったと思います。今回はキャンプでハプニングが起き、たくさんの方々にご迷惑ご心配をおかけしました。また、たくさんの方々にお世話になりました。たいらんさんをはじめとする、JIAのみんなや、日本人オールドキャンパー、また一緒に行ったキャンパーのみんなに心から感謝しています。大好きです。ありがとうございました。

LL(ライフリーダー) in 儒洞 (ゆうか)

〈仕事内容〉

- ・プロジェクトの準備
- ・生活物資や薬箱の管理
- ・日直のアレンジメント
- ・ベッド決め
- ・日常生活、キャンパーの生活状況に気を配る

〈総括〉

キャンプ前にビデオ MTG を行なったり、LL の仕事についての資料の日本語訳をしたりして仕事内容を大体は理解できていたので良かったと思います。反省点としてはキャンプ中、もっと日本人キャンパーの生活状況に気を配れば良かったと思います。チャイニーズの LL の英語のなまりがすごくてなかなか聞き取りが大変でしたが(笑)何倍も時間をかけて話し合えたので、すごく仲良くなりました。



KP (キッチンポリス) in 儒洞 (きたまな)

<仕事内容>

- ・朝食・昼食・夕食の cooking member と washing member(皿洗い)の担当決め。
- ・買い出し係の担当決め。
- ・Party と Dinner に関するプロジェクトの担当。
- ・残りの食材と調味料の把握、買うべき食材のチェック、傷んだ食材のチェック。
- ・キッチン周りが片付いているか、食器や鍋など元の位置に戻されているかチェック。
- ・全体ミーティングでのリマインドや注意喚起。

(食器が元の場所に戻されていない、明日は買い出しがあるなど)

- ・村到着・出発の際の、キッチン周りの掃除、後片付け。
- ・料理の準備・食器洗いの際、キッチン周りの徘徊。

(cooking member と washing member の担当が困っているときにサポートする)

- ・ワークの際のおやつ準備。
- ・毎日の使用する食材の量の決定、場合によっては料理方法も決める。

<総括>

キャンプ前のミーティングもキャンプ中のミーティングもうまく話し合いができていたと思います。夏のルードンはハエが多いので、ハエ取りを先にキャンプ前に買っておくべきでした。キッチンの近くにKPがおらず、クッキングメンバーやウォッシングメンバーが後片付けやお皿の元の場所がわからないという状況になってしまったので、その時間帯はキッチンの周りを徘徊する必要があったと思いました。ミーティングも楽しく早く終わって一安心です。



EL (エンターテインメントリーダー) in 儒洞 (たつき)

<仕事内容>

(国内)

- ・キャンプソング、キャンプダンスの決定
- ・キャンプダンスの練習
- ・ゲームの内容を考える

(現地)

- ・ランニングの誘導
- ・キャンプダンスの指導
- ・ナイトチャットの準備&片付け
- ・ウェイクアップゲームとパニッシュメントの指導



<総括>

EL は、ゲームなどを通して場の雰囲気を盛り上げるのが仕事です。EL の活動は係の人と協力して活発的にできたと思います。しかし、大半の仕事を任せてしまい、迷惑をかけた部分もあります。自分の英語力の低さが原因だと思います。それでも係の人は分かるように丁寧に説明してくれました。EL は大変な分、係の人との関係が深まり、EL をできてよかったなと感じています。

RL (レコーディングリーダー) in 儒洞 (ぽぽ)

〈仕事内容〉

- ・ キャンパーカードの作成
- ・ 毎日のレコーディングプランの作成、共有
- ・ 普段の生活やプロジェクトなどキャンプのあらゆるシーンを写真や動画で収める
- ・ 映画鑑賞の運営
- ・ キャンプ後動画の作成 (中国人キャンパーが作成)



〈総括〉

- ・ 翌日のプロジェクトの写真を撮る係を前日に決めていなかった。
- ・ データの整理に何時間もかかってしまいナイトチャットに参加できなかった。
- ・ キャンプ中の笑顔をたくさん写真に収めることができた。
- ・ 中国人キャンパーが新キャンパーだったため周りに助けを求めることが多かった。
- ・ 映画鑑賞会の際の事前準備がしっかりできなかった。

会計について

担当：ぼぼ、ゆうか

〈概要〉

今キャンプは先発・後発組と分かれていたため、会計を完全に二分した。

〈仕事内容〉

- ・資金の徴収、換金。
- ・生活費と個人費に分割後、前者を管理。

〈換金〉

先発組(5人)：200,000円→12800元 (1元=約15.6円)

後発組(1人)：15,000円→950元 (1元=約15.8円)

*中国の JIA オフィス付近の銀行で換金した。



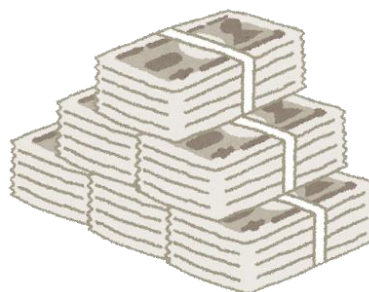
〈全体会計収支〉

*円の小数点以下切り下げ

○先発組 (5人)

[国外]

○支出



宿泊費	242 元	3,775 円
交通費	2,731 元	42,604 円
飲食費	2,127 元	33,181 円
儒洞村キャンプ費	1825.55 元	28,479 円
テンチャオビジット費	750 元	11,700 円
病院費用の立て替え	2,590 元	40,404 円
娯楽費	72.5 元	1,131 円
雑費	360.85 元	5,629 円
個人費	2,500 元	39,000 円
合計	13,126 元	204,772 円

○収入

フリマ売り上げ	288 円	4,493 円
AGM 後発残り	3 円	47 円
テンチャオビジット残り	78 円	1,217 円
追加徴収	100 円	1,560 円
合計	469 円	7,317 円

* (支出-収入) ÷ 5 = 1 人あたり : 約 39,491 円

[国内] (一人あたり)

航空券 (往復)	58,233 円
日本人企画準備費	1,126 円
海外保険費	11,820 円
キャンプ T シャツ	3,000 円
合計	74,179 円



[一人あたり総支出]

39,491 + 74,179 = **約 113,670 円**

(* 現段階まだ病院費用を立て替えている状況のため、この金額となっております。今後 8,000 円/人ほど返金があると思われます。)

○後発組 (1 人)

[国外] * 小数点以下切り捨て

宿泊費	20 円	316 円
交通費	36 円	569 円
飲食費	153.5 円	2,425 円
テンチャオビジット費	257 円	4,061 円
合計	466.5 円	7,371 円

* 個人費 : 15,000 - 7,371 = 約 7,629 円

[国内]

航空券（往復）	67,200 円
日本人企画準備費	1,126 円
海外保険費	6,240 円
キャンプTシャツ	3,000 円
合計	77,566 円



[一人当たり総支出]

7,371+77,566=約 84,937 円



〈総括〉

- ・換金する予定だった日に換金ができず、キャンプ終了後に換金することになってしまったため、オールドキャンパーの個人的なお金から手出しするなどの対応をせざるを得なかった。
 - ・前年度と比べて、さまざまな費用がかさんでしまった。
 - ・先発組、後発組の会計を完全に二分したことは、混乱を防ぎ、時間の節約となったため良かったと考えられる。
 - ・多くの場面で領収書をもらうことが困難だった。
- 今後も領収書をもらうシステムを続けるのか検討する必要がある。

保険について

今回は西南学院大学のボランティアセンターの指定であるジェイアイ傷害火災保険に加入しました。FIWC九州の規定である、治療費用3000万円以上、その他傷害、過失、疾患等の保険内容を満たすものに登録しました。既存のプランから選択したのでカスタマイズする必要はありませんでした。今回かかった保険費用は**先発11,820円/人、後発6,240円/人**でした。下記がその保険内容と設定した金額です。

保険内容	金額
傷害死亡	3,000 万円
傷害後遺障害	3,000 万円
疾病死亡	3,000 万円
治療・救援費用	NO LIMIT
個人賠償責任 (自己負担額なし)	10 億円
携行品損害 (自己負担額なし)	300 万円
航空機寄託手荷物遅延 (定額払型)	100 万円
航空機遅延	20 万円

他己紹介

かせちゃん

われらがリーダーかせちゃん！！！！いつも笑わせてくれたのはかせちゃんでした。時にはお母さんのように私たちを支え、時には赤ちゃんのような笑顔、寝顔で癒してくれましたね。授業で習った中国語を使って、村人と筆談を楽しんでいる姿はかっこよかった・・・村人とも楽しそうに話していて、本当にすごくなって思いました。

「Yukiは中国語ができる」と他のチャイニーズキャンパーからも評判でした！AGMでの英語での発表も成功だったと聞いたよ！お疲れ様！かせちゃんかわいいです

ね！GL本当にお疲れさまでした～！かせちゃんの寝顔がまた見たいな♡ (by きたまな)



きたまな

誰からも愛されるチャイナキャンプ1のポンコツ、北村真海。考えていることがあまりにも素直でびっくりすることも多々ありましたが、春キャンプの時よりも英語も話せるようになり、頼もしさも増していました（多分）。村人のことを誰よりも純粋に、一番に考え、mtgのときに積極的に“もっとこうすべきだったんじゃないか”と提案する姿はとってもかっこよかったし素敵でした！また一緒にキャンプ行こうね。（by ぼぼ）



ぽぽ

チャイニーズのことが大好きなぽぽ。

村人への愛が溢れてるぽぽ。

村に居るときもチャイニーズと居るときもすごい
元気やったね(笑)

そして一人で村人に絡みに行こうとするのすごい！
行動力尊敬！！

テンチャオ村を去るときにラオポポとバイバイのハ
グしてた様子すごい素敵やった。

ぽぽとキャンプ行ったの初めてやったけど、ぽぽはチャイナキャンプがほんとぴったりだ
と思います。

テンチャオの GL お疲れ様～！（by ゆうか）



ゆうか

ネパールキャンプから、今回初のチャイナキャンプに参加
のゆうか！彼女の魅力は短文では伝えきれない！英語もバ
ッチリで、言うことすることがお茶目で、面白くて、一緒
にいると元気もらう！！たくさんのチャイニーズからも好
かれていました。（イケメンチャイニーズからも…♡笑）
初キャンプ一緒に本当に嬉しかった！ありがとう(^ ^) (by
みなみ)



たつき

シャイなのか積極的なのかよくわからないたつき。可愛いチャイニーズと距離を縮めるその技はとても素晴らしいと思います。あまり感情を表にしないたつきの内に秘めた感情や思いをいつか聞いてみたいものです。愛のある(?)冗談で人を馬鹿にするのは、ほどほどにしてくださいね。(by かせちゃん)



みなみ

みなみは動物に例えるならネコ！笑 おっとりとした性格でみんなの心の癒しの拠り所ルックスと行動がキュートで、チャイニーズからも”Minami is so cute!”とよく言われてました。キャンプ中にiPhoneのパスワードを忘れ、使えなくなったという天然な一面も！また、みんなのことを心配し、気遣う、そんな、みなみに助けられました。みなみと自分は、初キャンプで、一緒に参加できて本当に良かった！これからもお互い頑張ろうな！（by たつき）



キャンパー感想

加勢田有希

初めてチャイナに行った2月から、約半年わたしはどれだけ成長できたのだろうか。一緒に行くのはチャイナキャンプ2回目のぽぽときたまなど新キャンパー3人。オールドキャンパーと言ってもまだ1回しか行ったことのない3人は、まだまだ経験が足りていないし、知り合いのチャイニーズも少ない。しばた～さんたちのようなオールドキャンパーには到底敵わないだろうと、初めは色んな事に対して不安を感じていた。1回目のキャンプは正直先輩に頼りっぱなしで、言われたことややらないといけないことをただこなしてキャンプに臨んだだけだった。ワークキャンプ2回目にしてリーダーとしてみんなを引っ張っていく自信もなかったし、予想以上にやらなければいけないこと、考えなければならないことが多くて、投げ出したくなることもあった。そんな中で、ぽぽときたまはわたしよりもしっかりと先を見通して行動してくれていた。その時に、私だけじゃなくて、みんなで作るキャンプであることを改めて強く感じた。そんな初めての経験がいっぱいあった夏のキャンプのハイライトをここで述べたい。



ルードン村に着いた日、村人に再開したときのことはいつでも鮮明に思い出される。バスから降りた時、リャンイーという村人が私の所へ来て、広東語の名前(ヨウヘイ)を手を握り、微笑みながら呼んでくれた。わたしはとても驚いた。1回目、特に名前を覚えてもらおうとしたわけでも、何か印象に残るようなことをしたわけでもなかったのに、覚えていてくれたなんて…。ああ、何回でも村人に会いにここに来たい。その時に、強くそう思った。

キャンプ中、村人との距離は1回目の時よりもとても近く感じた。私自身、中国語を勉強したこともあり、筆談や、簡単な会話を村人と直接することができた。また、2月よりもルードン村の村人たちは元気だったように感じた。例えば、プロジェクトに積極的に参加したり、プロジェクトが終わった後もキャンパーとカードゲームをしたり、対話をしたりしていた。夏という気候が村人たちを元気にしているのか、それは分からないが、その姿を見て、わたしも元気になった！！とても印象に残っている出来事がある。朝から夕暮れまで一緒に過ごすプロジェクトで、わたしが一緒にいたリンボがまるで私を孫のようにもてなしてくれたことだ。一緒に料理を作ろうと言ったが、「ご飯ができるまで木陰で休んでいなさい。できたら呼びに行くから。」と言って1人でご飯を作ってくれた。まるで自分のおじいちゃんのような温かさを感じた。同時に、わたしは何のためにここへきて、何をしに来たのか

からなくなった。そのモヤモヤは今でもわからないままではあるが、村人たちが私たちにまた会いたいと言ってくれる限り、わたしはそこへ行きたいと思った。

キャンパーが村を離れる 1 日前から、とても悲しい顔をしているリャンバというおじいちゃんがいた。話を聴くと、彼は村には友達がいなくて感じているらしいことがわかった。わたしはそのことをその時まで知らなかった。リャンバは、キャンパーが来ることを毎回とても楽しみにしていて、私たちと過ごすときはいつも満点の笑顔だった。わたしは彼の笑顔が見たかったが、最後の二日間、リャンバはとても悲しい表情をしていた。私たちがくることは村人をとても嬉しい気持ちにする反面、村を離れるとき、離れた後は寂しい気持ちにしていることに気づいた。わたしにとって、たった 8 日間の楽しいキャンプは、村人たちにとって、もしかしたら忙しくて賑やかな長い 8 日間かもしれないし、待ち望んでいた短い 8 日間かもしれない。それぞれ感じることは違うかもしれないが、その時に、わたしは村人の人生に関わっていることに気づいた。村人に会いに行くことは、わたしだけでなく、村人にも色々な影響を与えているのだと感じた。キャンプを終えた今、村人の人生に関わった以上は、これで終わらせるのではなくチャンスがある限り継続して彼らに会いに行きたいと思った。

次に、キャンプに欠かせないキャンパーへの想いをつづりたい。まずはチャイニーズキャンパー。今回はキャンプ中に色々なことが起きて、色んな人にたくさんの迷惑と心配をかけた。キャンプ中だけでなく、常に私たちを気づかい助けてくれている彼らには本当に感謝しなかった。チャイニーズキャンパーの誰かが「チャイニーズは日本人が中国に着いたその瞬間から、私たちを守らなければならないという使命に駆られている」と言っていた。大袈裟に聞こえるかもしれないが、彼らは本当にいつも私たちのそばにいて、何かあるときはすぐに助けてくれた。前回のキャンプでは同世代の学生同士として、異文化交流することを楽しんでいて今回は、チャイニーズキャンパーの有難みを身に染みるほど感じる事ができた。私たちが楽しく過ごせるのは、彼らのおかげである。本当に本当にありがとう。你真的很不错！！次に日本人キャンパー。リーダー感のない頼りない私についてきてくれたみんなには本当に感謝しかない。特にぼぼときたま。二人には頼りまくりだったし、嫌な顔せずに頼んだことをしてくれたり、私が気づいていないようなことに気づいてみんなに伝えてくれた。みんなでリーダーしたようなそんなキャンプだったな。たまたま年がみんな同じということもあり、とても接しやすい雰囲気と一緒にいてとっても気が楽だった。25 日間という長い時間を一緒に過ごしてくれてありがとう。みんなと一緒に笑い泣いたこの夏を忘れることはないだろう！！

今年の夏は楽しかった！！一言では言えないほど、色々なハプニング、つらかったこと悲しかったこと嬉しかったこと考えたこと、いっぱいある。でも一つだけ確かに言えるのは、村人とチャイニーズに会えて本当に嬉しかった。村人が大好きだ。チャイニーズが大好きだ。離れた家族のように大切だと心から思う。我想要尽快回广州见你!!またすぐに会いに行くよ。

北村真海

今回のキャンプは私にとって、2回目のチャイナキャンプである。一言でいうと今回のキャンプはとてつもないくらいに楽しみつくした。(笑)春の時より、村人が、キャンパーが、中国がもっともっと好きになったキャンプだった。

今回のワークキャンプ地は、儒洞村。私が春キャンプで行った場所である。私がまず、村に行って気づいたことは、村人の変化だ。一番変化が顕著だったのが、XiuMuyun というおじいちゃんである。最初のキャンプでは、彼はあまりキャンパーや村人と話さない印象だった。また、以前は、私たちが行うイベントに対して最初から参加することは少なく、イベントが始まってしばらくしてひっそり端っこのほうでイベントに参加するといったような状態だった。先輩から聞いた話では、ルードン村に最初に訪れたとき、



XiuMuyun はある一人のチャイニーズキャンパーにしか口を開かなかったそうだ。しかし、今回のキャンプでは、彼が私たちが行うイベントに最初から最後まで参加しているという状態を私は目にした。また、Big Dinner では用意された椅子に座って、村人とキャンパー達と話しながら、一緒にご飯を食べていた。以前は考えられない光景だったので、私はとてつもなく驚いたと同時にとてもうれしかった。このように、JIA や私たちが村に訪れることによって、少しでも村人たちの気持ちに良い変化を与えているのを目の当たりにし、私たちがハンセン病快復村で、ワークキャンプをやる必要性を身をもって体験した気がする。私が二回ルードン村に行かなければ、わからなかった光景だったであろう。もう一度、儒洞村に来ることができて本当に良かった。

今回、ビジットとして今まで行ったことがないテンチャオ村に訪れた。村人たちの平均年齢は80歳と高齢の方が多く、儒洞村とは違った印象だった。また、テンチャオ村は、日本人が昔から訪れていた村であったため、道やごみ溜め場などいたるところに日本人の名前が刻まれており、歴史のある村なのだ実感した。新しい村人との出会いは、緊張したが、村人たちは新参者の私にも優しくしてくれた。正直、ビジットキャンプは、時間が短く、トラブルもあったため、全員の村人と交流ができなかった。後悔する点である。次回のキャンプで同じような目に合う人がいないように、このことは伝えておきたい。たつきが犬に噛まれたとき、一番心配していたのは、その犬の飼い主である一人の村人であった。その村人は、悲しんだ表情を見せながら、「次回、日本人はもう来ない？」とチャイニーズに何度も訪ねていた。自分達の危機管理の意識の低さが、村人をチャイニーズをいろんな人を心配させて、悲しませることを改めて痛感した。今回6人で無事に帰れたこと

本当に感謝しています。今回の件に関わって行動していただいて、連絡をとってくださった全ての人にお礼を言いたいです。本当にありがとうございました。

最後に、私は、あったかい村人達が、キャンパー達が好きだ。チャイナキャンプに参加すると目の前の人達に誠実に向き合う大切さを教わる。挨拶や笑顔といったごく当たり前のように思えることが本当はとても大事だと気づかされる。私は人と人との繋がりを大切にこのキャンプが好きだ。次回彼らにあった時に、成長した姿を見せられるよう、毎日を大切に過ごしていきたい。

田原優佳

ワークキャンプは三回目、今回は初のチャイナキャンプでした。きっと今まで自分の経験したワークキャンプとはまた違うキャンプになるんだろうと始終ウッキウキしてました。(笑) 今回のチャイナキャンプを一言でまとめると、沢山の素晴らしい出会いに溢れていました。儒洞村と藤橋村という素敵な場所をも知れました。そしてチャーニーズの優しさに圧倒されたキャンプでした... FI に入った一年生の春、報告会や新歓でチャイナキャンプを経験した先輩キャンパーの話聞き、チャイナキャンプではこんなにも人のことを思い、全力でその人のために考え、寄り添うことができるんだ...と心打たれました。素敵なキャンプだなあと。チャイナキャンプを経験したいっていうのはそのときからの決心です。参加可能な人数が少ない中で、運良くキャンパーにならせていただきました。本当に感謝です。



先輩やキャンパーから、村はどんな感じで、どういう村人が住んでいるのか、たくさん話を聞いてきたので、早く村に行って村人に会ってみたい！！そんな気持ちでキャンプを迎えました。最初の、実際に儒洞村を訪れ、村人に会った印象は、すごく生き生きとしてて元気な村。笑顔が素敵で温かい村人。たくさんたくさん話を聞いて、

知ってたはずなのに、圧倒された自分がいました。ハンセン病を快復した人が住む隔離された村。そんな、フィルターをかけて接したくはないけど、心のどこかで、どうして快復者である村人は想像できないくらい辛い過去を生きてきたのにこんなに明るくて元気な村なのか、自分にはまだ分かりませんでした。きっとたくさん村人と関わって、彼らのことを深く知らない気付けないんだと。とりあえず、村人と話したい！という気持ちで村に到着した初日、さっそく村人のところに行きました。「ネイホウ(こんにちは)！オーハイヤップンヤ(私は日本人です)！」私は中国語も広東語もできないけど、通じるか分からない広東語で簡単な自己紹介をしてみました。「テンエンヨウクアイ。」中国語、広東語の自分の名前を

教えてもらいました。ネームカードと私の顔を見ながら、笑顔で何度も繰り返して名前を呼んでくれる姿が可愛くて、嬉しくて、私はニヤニヤしてました。(笑)

ネパキャンのときとは違って、チャイナキャンプでの、村人との会話はチャイニーズの通訳を通してで。ネパキャンのときみたいに直接村人と会話することが難しいので最初は、チャイニーズの助けがないと会話することが出来ないことが本当にもどかしくて。それでも通訳を介すれば深い話もできて、もっと村人のことも知れます。どちらが優ってるとかはないけど、すごく考えさせられました。ネパキャンでネパブックを活用してたように広東語ブックを持って行ったんですよね、それを使って村人の心を掴めたらなど。(笑)でも広東語難しすぎて上手くいきませんでした(悲) このキャンプ中、私が村人とおしゃべりしようとするとき、そっと自分のそばに来てくれて通訳してくれたチャイニーズにも本当に感謝しています。ここではそれが普通で当たり前、だと思ってしまいそうなことですが、彼らにもたくさん助けられています。

今回、村人に対してハンセン病快復者という目線で接することがあまりありませんでした。手足に後遺症の痕が残っていますが、料理、洗濯、掃除を慣れた手つきでこなしていく村人を見ていると、良くも悪くも、彼らがハンセン病快復者だという現状を忘れてしまうほどでした。村人とお話をするときも、あまりハンセン病のことやハンセン病に関する彼らの過去に触れられませんでした。触れる勇気がありませんでした。彼らに辛い、苦しい思い出があるのは確かで、どういう想いで村に来て、何十年もここで生活しているのかは、私たちに計り知ることはできません。私たちだけで想像して勝手に納得してもいけないほどだとも思います。それでもこうやって力強く生きている村人たちを心から尊敬しますし、快復村、強く生きる彼らには、何度も何度も村を訪れ、交流を続け、活動を続けている現地の学生、過去の日本人キャンパーたちの努力やたくさんの想いが詰まっていると思います。そんな村で彼らに出会い、共に生活できたことは尊いことだとも感じます。(最初に村を訪れたときに感じた疑問に対してちょっと納得できた気がします。)

日本人として、村人のためにできることは何か、村人と過ごせるこの貴重な時間の中で彼らのために尽くせることは何か。どうすれば彼らの心に寄り添えるか、何度も考えさせられました。すごく難しいなあと。とは言っても自分なりに何となくは、こういうことだよなあ...と頭の中では分かってるつもりで、行動に移してみようとするけど、それがほん



とに難しく。 (語彙力がない..)このキャンプ中に自分が達成できたことに満足はできませんし、悔しいっていう気持ちもあります。それでも、キャンプ中、通訳を介してですが、沢

山お話して、心から笑い合ったり、辛い話も聞いてもらったり、自分の涙を見せてしまうほど、深い時間を共有できた私にとって大切な村人もいて。彼女からたくさん温かさをもらいました。逆に村人が与えてくれたものが多かったかもしれないです... 彼らの力強さに圧倒されるばかりだった自分はずっとハンセン病というものに触れるべきだったとも思います。触れないといけなかったんだと思います。時間も限られています。このキャンプで感じたことを自己完結で終わらせてはいけなないと。しっかり伝えていかなければならないんだと思います。

私は三回目の今回が初のチャイナキャンプで、初のワークキャンプがチャイナじゃなかったからもう何度も参加することは出来ないけど、最初にチャイナキャンプを選んだ先輩キャンパーたちがチャイナキャンプを何度も選ぶ理由が分かった気がします。(笑) ほんとうに沢山の愛に溢れてて、ひとのあたたかさを感じます。また帰りたい場所ができるっていうのがすごく分かります。すごく素敵なキャンプだと思います。色んな理由があってもうキャンプには参加できないかなって思うけど、FI のキャンプで感じたことは自分の財産ってくらい大切にしたいもので、FI のキャンプに出逢えて心から良かったです。キャンプで関わった全てのメンバー、先輩には感謝しかありません。

この夏、沢山の素敵な出会い、大切なことをチャイニーズ、村人からたくさんもらった気がします。ワークキャンプってほんとにいいですね、何度行っても新鮮ですっごく楽しいです。

樋口歩美

“workcamp is magic place”

これはあるチャイニーズが言っていた言葉です。今キャンプの魅力は本当にこの言葉に集約されていたと思います。読みにくいと思いますが読んでくれたら嬉しいです。

2回目参加するかどうか、ずっと決められなかった。前回自分に何ができたのか、何を頑張ったのか、そんなことを考え始めると答えが出なくて、このあやふやな気持ちでキャンプに行くって言うていいのか分からなかった。それでもオールドキャンパーの言葉でなんとか参加を決めた。そのあとは何かに取り憑かれたように新入生にチャイナキャンプの良さを伝えて勧誘していた。自分でもよくこんなにすらすら言葉が出てくるな、ってちょっとびっくりした。「村人めっちゃ優しく



てね」「チャイニーズほんとにすっごく優しくて、たった2週間だったけど仲良くなれて」「優しい」って言葉は多分勧誘の時に一番よく聞く台詞だと思うし、決して間違っていない。でも誰の言葉で話しているのか分からなかった。自分の口から出る言葉が自分の言葉じゃない気がして気持ち悪かった。自分がどこまで本当に思って新入生に語っているのか、そう考えると怖かった。

キャンプ中、チャイニーズの当たり前に見せる行動にたくさん驚いた。前は自分のことでいっぱいだったから気づけなかったが、場の空気の作り方、村人との関わり方、周りを見る力、みんなで話を共有しようとする力、言葉にしなくても察する力、たくさんたくさん尊敬する部分が、真似したい部分があって、それでいてみんな当たり前に行っているのが本当に、すごいなんて言葉では表せないぐらい、こんな人があるんだと思った。心の底から尊敬した。そして自分はチャイニーズからもらったたくさんの優しさをちゃんと返せているのだろうか、自分がチャイニーズの立場なら同じ行動がとれるだろうか、と何度も考えた。いつかたくさんのことを教えてくれたチャイニーズのような人間になりたいと思う。

プロジェクトのとき、私はシートウーポポというおばあちゃんとあと何人かのチャイニーズと一緒に昼ご飯を食べていたのだが、シートウーポポは私に何か伝えたいとき普段の何倍ものジェスチャーを使って話してくれていることに気づいた。最初はもっと食べろとしか言われなかったから、そのことには気づかず普通に、もうおなかいっぱいだよ〜って返していたが、片付けをしていたときにジェスチャーでこのテーブルはどこに片付ける？と聞いたら、夜ご飯の時にまた使うからそのままにしておいて、と身振り手振りで伝えてくれた。言っていることが全部分かった。そのとき、会話の方法に悩んでいるのは私たち日本人だけではない、村人も私たちとの会話の方法を模索しているのだ、と感じたし、村人に負けてられない、私ももっとコミュニケーションをとる方法を積極的に探さなければ、と実感した。

キャンプ中、ふと考えたことがあった。「優しい」って何だろう、ということだ。村人がしてくれる一つ一つの行動を「優しい」と感じていたとき、ふと優しさ探しをしている気になった。ありがたいことに日本でもしてもらっていることには「優しい」って気づかずに、当たり前って思っていて、中国に行った途端、先入観的に村人は優しいって思っているから、してくれたことすべてを「優しい」って感じている気がした。ホームビジットをしているとき、村は蚊がいっぱいたから私は刺されたところをずっと掻いていた。気づいた村人は塗り薬を塗ってくれて、「ああ優しいな」と思ったけれど、多分実家に帰ったとき同じように私がずっと蚊に刺されたところを掻いていたら、おばあちゃんは薬を塗ってくれるだろう。村人が塗ってくれるから優しい、家族だからそこまで感じない、というのは周りがくれる優しさに優劣を付けている気がした。わざわざ「優しい」を探しに行っていると思ったときは自分に嫌気がさしたけど、日本にしようが、中国にしようが、世界のどこにしようが周りがくれる「優しい」にちゃんと気づける人間になろうと思った。

日本人がわざわざ中国まで行ってハンセン病快復村に行くのは正直分からなくなること

もある。私たちである必要はないし、日本でできる活動だってきっとたくさんある。でも、タイランさんに何気なくキャンプ中にチャイニーズとマーケットに行った話をしていたとき、タイランさんが教えてくれたことがある。それは“日本人がマーケットに行くと物珍しそうに写真とか撮っていたら、マーケットの人が JIA の学生に「この子はどこから来たんだ」とか「なんでここに来ているんだ?」とか聞いて会話をするので、ハンセン病快復村が近くにあること、ハンセン病は感染するような怖い病気ではないこと、そういったことが自然に伝わる、偏見が少しずつ減っていくんだよ”ということだ。誰かに対して何かを伝えるとき、言い方とか手段って難しいけど、それが自然に会話の中でできるのなら、私たちが中国まで行く意味はあるのかもしれないと思った。

キャンプを終えて、キャンプ前、キャンプ中、たくさん悩んで良かったと思う。本当にたくさん悩んだけど、少しだけ答えが出た。私はきっと、中国にいるときの私が好きだ。主語が自分以外の誰かになっている時間が大好きだ。周りの優しさにたくさん気づけるあの時間が大好きだ。「なんでみんなそんなに優しいの?」とチャイニーズに聞いたとき、「ぼぼが優しいから私たちも優しくなるんだよ」と答えが返ってきて少し心が軽くなった。みんなが優しくなれる空間ってなんて温かいんだろうと思った。

ハンセン病という病気は、昔は差別され隔離される、断絶の象徴だった。けれど、ハンセン病がこの世界になれば、私は大好きなチャイニーズに、大好きな村人に会えなかった。少しおかしいかもしれないが、今、私はハンセン病という病気に感謝している。

柳達希



今回のチャイナキャンプに参加できて本当に良かった。キャンプの日々を振り返る。

中国に着いて初日からチャイニーズとのコミュニケーションに苦しんだ。相手が何を言っているのか聞き取れないし、自分の気持ちや伝えたいことを英語で言えなかった。これから一か月どうやって過ごしていこうか悩んだ。でもチャイニーズは私が言っていることを最後まで聞いて理解しようとしてくれた。

何をしたらいいか分からず戸惑っていた時も優しく教えてくれた。それまで中国に対してはマナーが悪い人が多いといった悪いイメージがあったが初日から変わった。

ハンセン病快復村での生活は毎日が幸せだった。ワークキャンプに行く前、村人は心を閉

ざしているという暗いイメージがあった。でも行ってみると全く違った。私たちを温かく迎えてくれてとても親切だった。

村では村人がキャンパーに料理を振舞ってくれるビックミールというパーティーがある。そのとき隣にいたのは Liang Rong で、彼は私のコップに酒を次から次へと注いできて、私は負けじと飲んでいただけが酔ってしまった。酔った私を見て彼や周りにいた人はとても笑っていた。そのとき、村人を楽しませることが私たちの役割なのだということに気づいた。それまで人に尽くして、貢献したいという漠然とした気持ちで過ごしていたが、パーティーをきっかけに何をしたらいいのかはつきり分かった。それから自分なりに村人を楽しませることができたと思う。

言葉も分からないのになぜだかわからないが村人と一緒にいたら温かい気持ちになった。去年まで私は浪人をしていて勉強ばかりの一年だった。とても暗い一年だった。でもチャイナキャンプに参加して人の温かさに触れた。それまで忘れていた、人の温かさを思い出したような気がする。

チャイナキャンプはトラブル続きで苦しいときもあった。でもキャンパー全員で協力して乗り越えることができた。自分も怖い思いもしたときもあったがみんなに助けられた。だから、かせちゃん、ぼぼ、ゆうか、きたまな、みなみとキャンプに行けて本当に良かった。最高のキャンプだった。ありがとう！

安武みなみ

初めてのキャンプ。どこのキャンプも行きたかった私は、悩みに悩んだけれど、チャイナキャンプに行くことを決意した。その一番の理由は、チャイナキャンプに参加した先輩方の話が特に自分の心に深く残っていたからだ。どこのキャンプへ行った先輩もキャンプに対する想いが熱く、その熱い想いはどこから生まれているのか知りたかった。



祖父の体調の悪化に伴い、今回の夏キャンプに参加は厳しいと思っていた。けれど、オールドの先輩方がご協力してくださり、後発組として今回参加することができました。後発を作ってくくださったオールドのキャンパーのみなさんには本当に感謝しきれないです。ありがとうございます。

今回の私の初めてのキャンプは、正直、悔いが残るキャンプだった。

その理由は、自分の未熟さとビジットキャンプのみのキャンプの参加だったからこそ全日程参加のみんなとのギャップを感じたからだ。

初めて会うのに、村人は、目が合うと笑顔で手を振ってくれた。自分の家族の話をしてくれる村人もいた。村人の優しさを感じる反面、自分が何ができているのか、どう村人と向き合えばいいのか、どうすればいいのかわからなくなってしまった。彼らとの心の距離感が上手く掴めなかった。それが、すごく悔しかった。

自分ができることを考え続け答えが出ないままビジットは終わってしまったが、村人との生活を終え、今の私が思うことは、知らないなら分かろうと彼らに歩み寄ること、そして彼らから吸収したものを自分がインフルエンサーとなり伝えることが自分ができることであり、していかなければいけないことだということだ。

それから、一緒に行ったことで日本人キャンパーの新たな一面を知ることができたことも私の中では大きなことだった。かせちゃん、ぼぼちゃん、きたまな、ゆうか、たつき。みんなと一緒にキャンプに行くことができて良かったと本当に思う。

自分の未熟さに途中で挫折そうになったこともあったけれど、前に進むことができたのは、みんなの心の温かさに何度も救われたからだ。チャイニーズの優しさには驚かされてばかりだった。1人でいる時にそっと側に来てくれたり、声をかけてくれたり…相手が気づくか気づかないかくらいの優しさがすごく嬉しかった。あんなに素敵な人たちに出会え、本当に幸せだった。チャイニーズと一緒に過ごす時間が増えていくほど、もっと長くみんなと過ごしたかったなあという思いに駆られた。また次会えた時は今度は私が彼女たちの心に寄り添える人間になりたいと心から思う。

今回の初めてのチャイナキャンプは自分が行なっているキャンプの活動の難しさに悩み、また自分の行動力、語力、注意力の低さを痛感し、自分はここへ来てよかったのかと思ってしまうこともあったけれど、9日間という短い時間が私にとって濃く感じられたのは、きっと、楽しいことも苦しかったことも含めそのときに感じた自分の思いと向き合ったからだと思う。

この活動を難しいという一言で終わらせず、考え続けていきたい。

これからが楽しみだ。

～ベストショット集～



にわとりとゆうか
By みなみ



村人からもらった瓜—どこぞの少年ですか？
By ゆうか



人生で一番充実してた日のうちの1日。
By ゆうか

カップルですか…？
By みなみ





我是可爱吗?
By かせちゃん



俺の決め顔(笑)
By みなみ



えもい By きたまな



チャイニーズからのプレゼント。中身は中国の調味料！空港でとられそうになったけど助かった～。 by みなみ

今後の方針

【 2020 年春チャイナキャンプ募集要項 】

日程： 2020 年 2 月、2 週間程度

場所： 中国広東省広州地区

活動内容： ハンセン病快復村でのワークキャンプ

費用： およそ 10 万円

募集人数： 約 1 人

募集期限： 11 月 26 日迄



【チャイナキャンプ説明会】

2020 年春キャンプにむけて説明会を行います！！

興味がある方はもちろん、どのキャンプに行くか迷っている方！

是非、お気軽に足をお運びください！

11/6(水)	説明会	16:30~@九大メインダイニング
11/13(水)	説明会	15:30~@西南クロスプラザ

上記の日程が厳しい方には個別説明会を行います。

いつでもどこへでも説明しに行きます！お気軽にご相談下さい(^▽^)/

<お問い合わせ>

西南学院大学文学部外国語学科英語専攻 2 年 加勢田有希 s22ac082.seinan-gakuin.jp

My colorful dreams
 come true with all your help
 Fly to the place
 wherever
 you want to make
 My colorful dreams
 come true with all your help
 Fly to the place
 wherever
 you want to make
 My colorful dreams
 come true with all your help
 Fly to the place
 wherever
 you want to make



再见 !!



JIA「家」×FIWC九州



YUKI POPO MANAMI YUKA TATSUKI MINAMI